

巻頭言

教師に求められる授業力

魚沼・小千谷支部 副支部長 小出小学校 佐々木 政彦 (H2)



12月7日(土)に、「教育フロンティア 2024 in 小千谷」が開催された。会員がこれまで積み上げてきた実践の発表に、参加者は、積極的に質問や意見を交わしていた。それぞれが自身の授業力(指導力)の向上を目指している姿がたくさん見られた。

今、学校現場では、学力向上と生徒指導上の様々な問題への対応という課題を抱えている。これらの課題解決の方策を考えていくと、教師の授業力の向上が大きなカギを握っていることにたどり着く。

令和4年12月に改訂された生徒指導提要では、「生徒指導の実践上の視点」として、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」の4つが示されている。また、学習指導と生徒指導について、「学習指導要領では、知・徳・体にわたる『生きる力』のバランスの取れた育成を重視しており、学習指導と生徒指導との関連を意識しながら、日々の教育活動を充実していくことが重要です。このことは、学習指導を担う教員が同時に生徒指導の主たる担い手にもなるという日本型学校教育の特徴を最大限に発揮させることでもあります。」と記されており、学習指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを進めていくことの重要性にも言及している。

それでは、実際に授業ではどんなことができるのか。

◆自己存在感の感受

- ・どの児童生徒にとっても、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくり
- ・児童生徒が、「一人の人間として大切にされている」ことを実感できる授業づくり

◆共感的な人間関係の育成

- ・友達が何を伝えようとしているのか、どうしてそう考えたのかを、お互いに理解しようとする学級の風土づくり
- ・安心して自分の考えを発表し合える学習集団づくり

◆自己決定の場の提供

- ・児童生徒が、自ら判断し、行動に移すことができる課題や活動の工夫
- ・多様な考えを引き出す発問の工夫と主体的に学習に向かうことができる振り返りの工夫

◆安全・安心な風土の醸成

- ・お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられる学級の風土づくり
- ・授業におけるルールとその大切さの意識付け

学習指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを進めていくための方策は、我々教職員のアイデアで無限に広がっていく。今後も、「教育フロンティア」のような会員同士で学び合う場を大切にし、お互いの授業力を高め合い、目の前にいる児童生徒のよりよい成長のために力を発揮していきたいものである。